



## 「送る」から「共有」へ

携帯電話にメールとカメラの機能が付き、撮った写真を、すぐに、どこへでも送ることができるようになってきました。初めは子どもの遊び程度に捉えられていたものが、情報の即時共有といったキーワードの下、ビジネスの世界でも浸透しつつあります。

携帯に限らず、電子メールを使った情報の共有は、とても便利です。しかし、制約もあるのです。

### 容量の大きいファイルは届きません

電子メールの便利な機能“ファイル添付”。設計図面や写真、Excelデータなどを離れた場所の方にお渡ししたいときに、とても重宝します。

でも、せっかく図面や写真を添付して送ったのに、相手に届かなかった、といった経験はありませんか？

具体的には、以下のような制約により、相手に届かないことがあります。

～送り手側の問題として～

- ・一度に送信できる添付ファイルの容量  
(重い荷物はメール便では送れません)



～受け手側の問題として～

- ・メールボックスの最大容量  
(ポストがいっぱいだと、入りません)

一般的には、一度に送信する添付ファイルの容量が、5MB(メガバイト)を超えたら要注意です。先ほどご紹介した制約に引っかかると、インターネット接続業者、またはメールボックスの管理業者から、その状況を示したメールが届きます。「もう、とっくに届いているはずなのに」と感じたら、お知らせメールが来ているかどうか、確認してみてください。

### 最新のファイルは送りなおし

一度相手に送ったファイルに修正があった場合、そのファイルを相手に送りなおさない限り、相手は古い情報のまま、ということになります。私も「最新版」や「〇月〇日版」といった名前を付けて送りなおすことがよくあります。

この方法では、情報の即時共有といったニーズに、完全に応えることはできないのです。

## それでも、大きなファイルを送りたい・・・

電子メールで大きなファイルを添付して送るときの作法として、「ファイルの圧縮」があります。送り手側で圧縮の操作をして、受け手側でその圧縮を戻す操作(“解凍”といいます)をするのですが・・・なんだか、面倒くさいですね。

どうしても、今、ファイルを受け取ってもらいたい! 圧縮しても小さくならない! といった場合には、大容量ファイル受渡しサービス、その名も「宅ふあいる便」<http://www.filesend.to/>をお勧めします。



誌面の関係上、サービスの詳細説明は上記のWebサイトでの説明に譲りますが、宅配業者の「荷物の営業所留め置き」のようなものとお考えください。

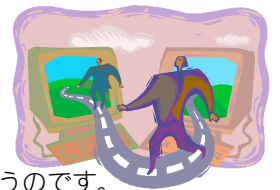
## 「VPN」で 離れた場所も お隣り感覚

社内の同じフロアのパソコンをネットワーク(LAN)で結び、お互いのファイルを参照したり、時には更新したりすることは、良くあるかと思えます。このようになっていると、情報の即時共有によるメリットを受けることができます。

でも、それは、同じフロアや同じ建屋内での話し。本宮にある本社の最新データを、郡山の支店で、いつでも参照や更新ができたなら・・・いちいち、メールで送信なんかしなくても良いですよね。送り先の誤りによる情報漏えいも防げますし。それを可能とするのが

「VPN」(Virtual Private Network)です。

VPNは、離れた場所にあるLAN同士を、インターネットを介して結んでしまい、あたかも、同じフロアにあるパソコン同士のようにしてしまうのです。



日本語に訳すと「仮想私設通信網」。公共のものであるインターネット網に、「自社専用のトンネル」を掘ってしまう技術です。自社のみならず、取引先との専用回線として利用している事例もあります。

時間と距離をグッと縮める「VPN」。複数の拠点をお持ちのお客様には、特にお勧めです。是非ご用命ください。

**編集後記** 私にはあまり関係が無いようなのですが、6月といえば結婚シーズン(今、7月でしたね)。デジカメで撮影した写真をみんなに配りたいといった時、メールの添付では、やはり大変です。最近、インターネット上に「デジタルアルバム」を作成しておいて、その“アドレス”だけを披露宴の参加者に配布する、といった方法が認知されつつあります。でも、「アドレス配られても・・・」という方もいらっしゃるようです。便利さと優しさの共有が問われています。(郡司)